

基本方針 1 新しい家族と出会い、育むことのできるまちをつくる

基本施策 1-1 結婚から出産、子育てにかかる切れ目ない支援の実施

	施策内容	①出会い応援事業	事業効果	進捗状況	実績、効果	課題、取組方針	行政内部による評価	委員会による外部評価
みらい	主な取り組み	・出会い応援イベント等の実施	イ	B	・2月に町主催婚活イベントを開催し男7人女4人の参加があった。 ・三重県南部地域活性化事業基金を活用し度会町、大紀町、大台町で連携したアウトドアをテーマにした婚活イベントを初めて開催し定員を上回る申し込みがあった。	・アフターコロナの動きから需要の拡大が想定されるため継続して実施する。 ・三重県南部地域活性化事業基金を活用した連携事業についてR6から玉城町が新たに参加し、4町連携で実施する。	効果があり、継続して取り組む	出会い支援に効果があった 効果検証を重ね取り組またい
		・いせ出会い支援センター等との連携による情報発信	イ	B				
		・三重県と連携した出張相談	イ	B				
保健	主な取り組み	②親と子の健康支援	イ	B	特定不妊治療は、今年度も先進医療の申請のみ。 ・フッ化物洗口は、コロナが落ち着いたため、今年度から再開した。 ・妊産婦、乳幼児の健診受診率は9割を超えている。	・不妊治療の保険適応は回数制限があるため、回数を超えた後の治療について助成をしていく。 ・妊産婦や乳幼児への健診を継続し、安心安全な出産、育児ができるよう支援していく。	効果があり、継続して取り組む	親と子の健康支援に効果があった
		・子育て世代包括支援センター事業の推進	イ	B				
		・不妊不育治療への支援	イ	B				
		・歯とお口の健康づくり	イ	B				
・妊産婦、乳幼児への検診・予防接種の助成	イ	B						
保健・教委	主な取り組み	③途切れのない発達支援体制の充実	イ	B	・乳幼児健診で、発達に課題のある児を早期発見早期支援につなげている。 ・CLMは春と秋に実施。 ・今年度はみえ発達障がい支援システムアドバイザー研修に保育士を1名派遣したので来年度以降は指導体制が充実できると思われる	・子どもの年齢が幼いほど保護者の理解が得にくいため、関係構築しながら早期支援につなげていく ・来年度以降、CLMはアドバイザーと保健師で実施していく	効果があり、継続して取り組む	保育所、小中学校連携等発達支援の体制充実に効果があった
		・幼児期健診による早期支援の実施	イ	B				
		・CLM(チェック・リスト・イン三重)の継続実施	イ	B				
		・途切れのない発達支援システム会議による保小中連携の構築	イ	B				
・伊勢市児童発達支援センターとの連携強化	イ	B						

	指標	単位	現状値	R3	R4	R5	R6	R7
みらい	イベントや相談などへの住民参加	%	7.3	10	15	20	25	30
	実績	件	22	25	30	35	40	45
保健	子育て世代包括支援センター相談件数	件	325	330	335	340	345	350
	実績	件		254	123	126		
教委	12歳児のむし歯数	本	1.08	1.06	1.04	1.02	1	0.98
	実績	本		1.03	0.76	0.40		

事業効果
 ア：地方創生に非常に効果的であった(目標値を達成した場合)
 イ：地方創生に相当程度効果があった(目標値の8~9割達成した場合)
 ウ：地方創生に効果があった(目標値の5~7割達成した場合)
 エ：地方創生に対して効果がなかった(進捗がみられない場合)

総合評価
 1：効果的に実施できた
 2：ほぼ予定通り実施できた
 3：予定通り実施できなかった

進捗状況
 A：予定を超えて実施できた
 B：予定どおり実施できた(10割実施)
 C：予定近く実施できた(8~9割程度)
 D：予定には及ばなかった(5~7割程度)
 E：予定の5割未満

基本方針 1 新しい家族と出会い、育むことのできるまちをつくる

基本施策 1-2 楽しい子育てを支えるサポートの充実

保健・教委	施策内容	①子育て世帯のスマイルサポート事業	事業効果	進捗状況	実績、効果	課題、取組方針	行政内部による評価		委員会による外部評価		
	主な取り組み	・保育所・小中学校給食費の助成 ・高校生への修学支援	ア ア	A A	・コロナ交付金を活用し、通常半額補助である給食費、副食費を9カ月分無償化した。 ・コロナ交付金を活用し、通常の高等学校等修学支援金に上乗せした支援を実施することができた。 ・一定期間、給食費の保護者負担が無料となることで家庭の負担を軽減できた。	・コロナ交付金の活用が単年度事業であるため、継続的に支援することは財政的に困難である。R6年度は、給食費は半額補助、就学支援金は20,000円/年と例年通り補助を実施し、活用できる補助金等があれば、支援拡大を検討したい。	効果があり、継続して取り組む	総合評価	1	総合評価	1
保健	施策内容	②保育・子育て支援サービスの拡充	事業効果	進捗状況	実績、効果	課題、取組方針	行政内部による評価		委員会による外部評価		
	主な取り組み	・保育所待機児童ゼロの維持 ・保育所の認定こども園化に向けた調査研究 ・放課後児童クラブの対象拡充	イ エ イ	B E A	・年度当初の待機児童ゼロは達成 ・認定こども園についてアンケートなどの要望認知はできなかった。 ・小学5年生までの利用範囲を継続し、利用人数も昨年度より増加。	・住民のニーズに添えるように努める。	効果があり、継続して取り組む 未実施項目は手法を検討する	総合評価	1	総合評価	1
	施策内容	③ワーク・ライフ・バランスの実現	事業効果	進捗状況	実績、効果	課題、取組方針	行政内部による評価		委員会による外部評価		
主な取り組み	・パパママ教室等を通じた男性の育児参加推進 ・働きやすい環境づくりに向けた育児・休業制度の普及啓発 ・男女共同参画意識の啓発	エ イ ウ	E C C	・参加者が少なく、新型コロナウイルス感染症もあったため、パパママ教室は個別対応とした。令和5年度希望は1組	・伴走型相談支援で妊娠8か月前にアンケートを取る際に不安等がないかどうか確認し、必要時対応している。 ・育児休業について、女性職員の取得率は100%に達しており、男性職員は取得しやすい環境づくりに努めた。	一定の効果があり、継続して取り組む	総合評価	2	総合評価	2	

	指標	単位	現状値	R3	R4	R5	R6	R7
保健	子育て支援センター利用者割合 <small>保育サービス未利用者に占める実人数の割合</small>	%	65	65	65	67	67	68
	実績	%		61	86	68		
保健	保育所待機児童数 <small>4月時点での待機児童数</small>	人	0	0	0	0	0	0
	実績	人		0	0	0		
保健	放課後児童クラブ利用者割合 <small>対象学年の児童に占める利用者の割合</small>	%	40	30	31	32	32	32
	実績	%		26	24	27		

事業効果
 ア：地方創生に非常に効果的であった(目標値を達成した場合)
 イ：地方創生に相当程度効果があった(目標値の8~9割達成した場合)
 ウ：地方創生に効果があった(目標値の5~7割達成した場合)
 エ：地方創生に対して効果がなかった(進捗がみられない場合)

進捗状況
 A：予定を超えて実施できた
 B：予定どおり実施できた(10割実施)
 C：予定近く実施できた(8~9割程度)
 D：予定には及ばなかった(5~7割程度)
 E：予定の5割未満

総合評価
 1：効果的に実施できた
 2：ほぼ予定通り実施できた
 3：予定通り実施できなかった

基本方針 1 新しい家族と出会い、育むことのできるまちをつくる

基本施策 1-3 未来にはばたく人づくりの推進

	施策内容	事業効果	進捗状況	実績、効果	課題、取組方針	行政内部による評価	委員会による外部評価
保健	①幼少期から始める“人づくり”						
	主な取り組み	イ	B	・ALTの派遣により年長・年中児を対象に英語教育を開始し、就学前に英語になじめるよう努めた。 ・コロナも落ち着き祖父母参観と一緒にフルーツバスケットなどを楽しみ自身の祖父母以外の方たちとも交流できた。	・園によって人数規模が大きく違うので、体験的なものは個々に差が出てしまう。 ・アフターコロナで活動を再開していく。	一定の効果があり、継続して取り組む	幼少期からの人づくりに一定の効果があった
	・英語スタートアップ事業	-	-				
・人型ロボットPepper導入による未来の教室事業	イ	C	総合評価			2	総合評価
教委	②確かな学力の育成						
	主な取り組み	イ	B	・三重スタディチェックの結果が年度当初実施の1回目と2月に実施した2回目を比較すると小中ともに向上していた。 ・タブレットを活用した健康観察や学校通信の配信、zoomによる授業等活用が行われた。 ・習熟度別の学習や支援員によるきめ細かな対応等個に応じた学びを実施した。	・指導主事による授業改善の実現、研修の活性化、ICT活用等により個に応じた学びを深める。 ・施策を進めるための人員確保や更なる環境整備を行う。	効果があり、継続して取り組む	学力の向上に効果があった
	・習熟度別授業の実施	イ	B				
・GIGAスクール構想を活用した新しい教育活動の推進			総合評価			1	総合評価
教委	③ふるさと教育の推進						
	主な取り組み	イ	B	・ふるさと歴史館では、月1回講座を開催し郷土史の学習を実施。便りの発行や各種講座・体験を実施するなど積極的に事業を展開している。 ・農業体験や木育授業、度会ビジネスパーク(キャリア教育)などを地域と連携して実施。 ・南伊勢高校の職場見学に協力。町内5企業に案内した。	・歴史館は来年10周年を迎えるため記念事業を実施し、地域学習推進の機会拡充を目指す。 ・キャリア教育は町内企業の団体が積極的に取り組んでおりバックアップする。 ・郷土産業教育は、地域の協力が高齢化する中、米作りは若い農家に実施していただいた。今後もバックアップと掘り起こしを行う。	効果があり、継続して取り組む	地域学習やキャリア教育等、ふるさと教育に効果があった
	・郷土産業体験事業の拡充	ア	A				
・ふるさと歴史館での地域学習推進	イ	B	総合評価			1	総合評価
教委	④地域の学びの場を確保						
	主な取り組み	ア	A	・町内図書施設は、町民が利用できる2施設については町ホームページから検索できるようになっている。リクエストも増加している。 ・地域力創造アドバイザーを活用し、「学び輝くプロジェクト」を実施。プロジェクトマップ展示や宮リバーイルミネーションなどを行った。	・図書施設は読書環境の充実、読書のきっかけづくり、周知に努めたい。 ・「学び輝くプロジェクト」は入学希望者の増加につなげられるように継続して取組む。	効果があり、継続して取り組む	図書施設の充実やアドバイザーを活用した事業等、地域の学びに効果があった
	・町内図書施設のネットワーク化推進	イ	A				
・南伊勢高校度会校舎活性化の取り組み			総合評価			1	総合評価

	指標	単位	現状値	R3	R4	R5	R6	R7
教委	学習習慣に関する意識調査結果	%	69.9	72	75	80	85	90
	平日の自主学習を1時間以上と回答した割合(上段:小6、下段:中3)		53	60	70	80	90	100
	実績	%		79.7 59.6	64.2 70.6	60.5 60.7		
教委	児童・生徒と地域の交流状況	%	70	75	80	80	80	80
	地域行事への参加率(上段:小学生、下段:中学生)		71.3	75	80	80	80	80
	実績	%		68.1 64.6	66.1 78.0	74.6 64.3		

事業効果

ア：地方創生に非常に効果的であった(目標値を達成した場合)

イ：地方創生に相当程度効果があった(目標値の8~9割達成した場合)

ウ：地方創生に効果があった(目標値の5~7割達成した場合)

エ：地方創生に対して効果がなかった(進捗がみられない場合)

総合評価

1：効果的に実施できた

2：ほぼ予定通り実施できた

3：予定通り実施できなかった

進捗状況

A：予定を超えて実施できた

B：予定どおり実施できた(10割実施)

C：予定近く実施できた(8~9割程度)

D：予定には及ばなかった(5~7割程度)

E：予定の5割未満

基本方針 2 ひとの動きを生み出し、つながり交流できるまちをつくる

基本施策 2-1 地域資源の積極的な活用

	施策内容	事業効果	進捗状況	実績、効果	課題、取組方針	行政内部による評価	委員会による外部評価	
産業	①地域資源を活かした人の流れの創出							
	主な取り組み	・自然体験型アクティビティによるPR	イ	C	・コロナ後の事業実施については自然体験型アクティビティに絞って実施した。民間業者と連携し、SUP体験やセブンマウンテンのPRを行ったほか、町内にサイクリングルートを整備した。	実施手法を検討する	コロナ等での状況変化をふまえて事業展開を検討されたい	
		・町の歴史文化を魅せる誘客促進	エ	E				
	・関係人口の創出事業	エ	E					
	総合評価			3		総合評価	3	
産業	②宮リバー度会パークの魅力向上							
	主な取り組み	・宮リバー度会パーク周遊プランの実施	イ	B	・プールの営業や公園を拠点とした各種イベント事業を再開。 ・グラウンドゴルフ場、東屋、貸農園の獣害対策は整備済。 ・樹木診断の結果に基づく伐木を行ったほか、民間財団の助成を受け、枝垂れ桜50本の新植を行った。 ・物販施設の拠点整備は候補地調査のみ実施済。	・周遊プランの実施については、コロナ対応の経験をもとに、新たな事業展開していきたい。 ・整備を行った施設について適切な維持管理が必要。 ・樹木診断結果に基づき、園内樹木の適正な管理を行っていく。R6には園内のソメイヨシノ20本を改植予定。	効果があり、継続して取り組む 未実施項目は手法を検討する	宮リバー度会パークの魅力向上に効果があった 物販施設については計画的に進められたい
		・グラウンドゴルフ場や東屋など新たな憩いの場の活用	ア	B				
		・貸農園の整備拡充および園内樹木の適正管理	イ	B				
	・物販施設の拠点整備	エ	E					
	総合評価			1		総合評価	1	
総務	③遊休施設の活用推進							
	主な取り組み	・旧小学校など町遊休施設の活用推進	ウ	D	・旧中川小は介護医療施設として、旧小川郷小は更生保護サポートセンターや、地域おこし協力隊員の活動拠点として、旧一之瀬小は南伊勢町との災害協定に基づく避難所・備蓄室として活用中である。	活用は一定進んでいるものの、老朽化に伴う修繕など管理費用も嵩み、今後その傾向が強くなると懸念している。旧中川小のような有償貸出につながればよいが、浄化槽など大規模修繕が必要な状況であり、表立った活用PRも難しいところである。	一定の効果があり、継続して取り組む	施設の活用方針の整理等、遊休施設の活用により一定の効果があった
	総合評価			2		総合評価	2	

	指標	単位	現状値	R3	R4	R5	R6	R7
産業	宮リバー度会パークへの入込客数	千人	176	180	180	190	190	200
	実績	千人		39	112	163		
産業	物販施設での年間売上額	千円	1,600	1,650	1,650	1,700	1,700	1,700
	実績	千円		1,250	1,000	1,300		

事業効果
 ア：地方創生に非常に効果的であった(目標値を達成した場合)
 イ：地方創生に相当程度効果があった(目標値の8~9割達成した場合)
 ウ：地方創生に効果があった(目標値の5~7割達成した場合)
 エ：地方創生に対して効果がなかった(進捗がみられない場合)

総合評価
 1：効果的に実施できた
 2：ほぼ予定通り実施できた
 3：予定通り実施できなかった

進捗状況
 A：予定を超えて実施できた
 B：予定どおり実施できた(10割実施)
 C：予定近く実施できた(8~9割程度)
 D：予定には及ばなかった(5~7割程度)
 E：予定の5割未満

基本方針 2 ひとの動きを生み出し、つながり交流できるまちをつくる

基本施策 2-2 交流人口増加に向けた体制の強化

	施策内容	事業効果	進捗状況	実績、効果	課題、取組方針	行政内部による評価	委員会による外部評価			
産業	①タウンプロモーションの推進									
	主な取り組み	イ	C	・R5.4春まつりにおいて、ふるさと親善大使として2名を委嘱した。 ・SNS、HP、情報配信サイト等を積極的に活用し、幅広い年齢層に向け情報発信を行った。	・ふるさと親善大使の活動を本格始動させる。 ・引き続き、様々なツールを利用した情報発信を行っていくとともに、ドローンによる映像や動画など魅力ある情報配信を心がけていく。	一定の効果があり、継続して取り組む	タウンプロモーションに一定の効果があった ニーズの変化に合わせた情報発信に取り組まれた			
		イ	B					総合評価	2	総合評価
産業・みらい	②広域連携による誘客促進									
	主な取り組み	イ	B	・県南部地域活性化基金を活用し度会町、大紀町、大台町で連携したアウトドアをテーマにした婚活イベントを開催。 ・サニー3町事業では、3町を巡るサイクルルートを整備し、同ルートを活用したサイクリングイベントを実施した。	・度会町、大紀町、大台町、玉城町の連携事業で婚活イベントを開催予定。 ・サニー3町連携による事業は町への誘客事業の柱として継続事業とする。 ・伊勢志摩コンベンション機構では、R4～ロケ誘致の事業規模を拡大しており、ニーズに応じた撮影スポットの情報提供を積極的に行っていく。	効果があり、継続して取り組む	広域連携による誘客促進に効果があった			
		イ	B					・伊勢志摩コンベンション機構との連携推進 ・三重県南部地域連携による活性化事業	ア	A
		イ	B	総合評価	1	総合評価	1			
教委・みらい	③産官学連携による地域人材の育成									
	主な取り組み	ウ	A	・地域力創造アドバイザーを活用し「学び輝くプロジェクト」を実施。プロジェクトマップや宮リバーイルミネーション等を行った。 ・地域活性化起業人を任用し、脱炭素やDXに向けた取り組みを進めた。 ・類農園の連携し、大阪から学生の地域体験合宿を開催。	・「学び輝くプロジェクト」は入学希望者の増加につなげられるように取り組む。 ・産官学の連携を強化し、継続して取り組む方針。	効果があり、継続して取り組む	産官学連携による地域人材育成に効果があった			
		ア	B					総合評価	1	総合評価
みらい	④再生可能エネルギー事業による交流推進									
	主な取り組み	イ	B	・宮リバー度会ソーラーパークが5月に竣工。12月には知事と町長との円卓対話に合わせて、一見知事をご案内した。 ・横浜ゴムと連携し、ウインドファームでの植樹等を継続的に実施。	・継続して再エネ事業者と連携した取り組みを実施する。 ・R6はコスモエコパワーの協力でフォトコンテストを開催予定。	効果があり、継続して取り組む	再エネ事業による交流促進に効果があった			
								総合評価	1	総合評価

	指標	単位	現状値	R3	R4	R5	R6	R7
みらい	パブリシティの年間件数	件	50	55	60	65	70	75
	実績	件		47	58	57		
産業・教委・みらい	産官学連携事業への参加者数	人	10	12	14	16	18	20
	実績	人		0	14	18		

事業効果
ア：地方創生に非常に効果的であった(目標値を達成した場合)
イ：地方創生に相当程度効果があった(目標値の8～9割達成した場合)
ウ：地方創生に効果があった(目標値の5～7割達成した場合)
エ：地方創生に対して効果がなかった(進捗がみられない場合)
進捗状況
A：予定を超えて実施できた B：予定どおり実施できた (10割実施)
C：予定近く実施できた (8～9割程度) D：予定には及ばなかった (5～7割程度)
E：予定の5割未満

総合評価
1：効果的に実施できた
2：ほぼ予定通り実施できた
3：予定通り実施できなかった

基本方針 2 ひとの動きを生み出し、つながり交流できるまちをつくる

基本施策 2-3 移住・定住の促進

	施策内容	①移住者・定住者への支援	事業効果	進捗状況	実績、効果	課題、取組方針	行政内部による評価	委員会による外部評価
みらい	主な取り組み	・移住・定住促進事業補助	イ	B	・移住定住補助金の活用実績18世帯44人 ・東京圏での伊勢志摩で連携した移住プロモーションイベントを実施し、伊勢志摩地域全体での移住推進に取り組んだ。	・伊勢志摩で連携した東京圏へのプロモーションも継続するが、名古屋圏や大阪圏へのアプローチを強化したい。	一定の効果があり、継続して取り組む	移住定住の促進に一定の効果があった
		・東京圏からの移住者に対する補助	ウ	D				
	総合評価	2	総合評価	2				
	施策内容	②“わたらいふ”プロモーション事業	事業効果	進捗状況	実績、効果	課題、取組方針	行政内部による評価	委員会による外部評価
みらい	主な取り組み	・移住相談会、移住セミナー、まち案内の実施	ア	A	・移住定住と空き家バンクを推進する地域おこし協力隊を2名任用し、県外での移住セミナーやまち案内を実施。 ・協力隊の活動で廃校を利用した交流の場が新たに生まれた。 ・伊勢志摩地域で連携したPR実施。	・R6.4新たに1名協力隊が着任予定であり、地域のにぎわい創出や魅力アップを目指した取組を積極的に行う。	効果があり、継続して取り組む	地域おこし協力隊と連携などわたらいふプロモーションに効果があった
		・移住者さん交流会事業	イ	B				
		・伊勢志摩圏域魅力発信事業	イ	B				
	総合評価	1	総合評価	1				
	施策内容	③空き家等の活用	事業効果	進捗状況	実績、効果	課題、取組方針	行政内部による評価	委員会による外部評価
みらい	主な取り組み	・空き家バンクの運営	イ	C	・協力隊による地道な調査や声掛けの結果、8件の申し込みがあった。 ・空き家活用の事例視察を実施。 ・協力隊自身が空き家を購入し、活動を広げる動きがある。	・空き家バンクの認知度向上が必要であり、地域に入り込んだ周知啓発活動を行う。 ・協力隊と連携し、バンク登録の啓発と空き家活用を模索していく。	一定の効果があり、継続して取り組む	地域おこし協力隊と連携し、取り組まれたい
		・農地付き住宅活用による新規就農者の確保	ウ	C				
		・多様なかたちでの空き家活用	イ	C				
	総合評価	2	総合評価	2				

	指標	単位	現状値	R3	R4	R5	R6	R7
みらい	移住・定住施策を通じた移住者数	人	40	44	48	52	57	62
	各種補助金や空き家バンクなどを通じた年間移住者数							
	実績	人		24	40	44		
みらい	空き家バンク成約件数	件	3	4	5	6	7	8
	空き家バンクを通じて成約した年間件数							
	実績	件		4	1	3		

事業効果
 ア：地方創生に非常に効果的であった(目標値を達成した場合)
 イ：地方創生に相当程度効果があった(目標値の8~9割達成した場合)
 ウ：地方創生に効果があった(目標値の5~7割達成した場合)
 エ：地方創生に対して効果がなかった(進捗がみられない場合)

進捗状況
 A：予定を超えて実施できた
 B：予定どおり実施できた(10割実施)
 C：予定近く実施できた(8~9割程度)
 D：予定には及ばなかった(5~7割程度)
 E：予定の5割未満

総合評価
 1：効果的に実施できた
 2：ほぼ予定通り実施できた
 3：予定通り実施できなかった

基本方針 3 地域資源を活用し、にぎわいのあるまちをつくる

基本施策 3-1 働く場の創出

	施策内容	事業効果	進捗状況	実績、効果	課題、取組方針	行政内部による評価	委員会による外部評価	
産業	①新たな雇用の創出							
	主な取り組み	イ	B	・創業予定者向けの補助事業を新たに設けたものの、活用実績がない状況。 ・設備投資に関しては、1件(R3~5:計11件)が関係法令による支援制度を活用した。	・各種制度を積極的にPRしつつ、現在の取組みを継続する。	効果があり、継続して取り組む	支援制度の活用等、雇用創出に効果があつた	
	・優遇制度による設備投資や雇用の促進	イ	B			総合評価	1	総合評価
・商工会等と連携した創業支援	イ	B						
産業	②事業継続支援							
	主な取り組み	ア	B	・R4~利子補給補助事業を新たに設け、マル経融資借入者に対し、同資金の利子額補給を行っている。R5には利子補給の対象となる資金として新たに「衛経融資」を追加し、補助事業を拡充させた。	・現在の取組みを継続する。	効果があり、継続して取り組む	補助制度の拡充等、事業継続に効果があつた	
						総合評価	1	総合評価
産業・みらい	③広域連携による就労促進							
	主な取り組み	イ	B	・伊勢志摩部会で連携し企業誘致活動を実施。 ・南三重地域(松阪市以南)の16市町と連携し、Uターン就職などの就労対策を実施。「就活ナビ」サイトを充実させ、町内企業、町商工会をはじめ、町職員も同サイトから募集を行った。	・就労対策事業に参画してもらえる町内事業者の掘り起こしが課題。継続し連携した取組を行う。	効果があり、継続して取り組む	就労の促進に効果があつた	
	・南三重地域就労対策協議会での若者就労支援	イ	B			総合評価	1	総合評価
・地域経済牽引事業促進協議会伊勢志摩部会での企業誘致活動	イ	B						
みらい	④再生可能エネルギー活用事業							
	主な取り組み	イ	B	・宮りパー度会ソーラーパークがR5年5月に竣工。風力と合わせて地域の雇用や事業者への発注機会の創出につながっている。 ・R4~5年度で再エネ導入戦略を策定した。	・風力、メガソーラーともに雇用の創出や地元事業者への発注機会につながっている。R6は再エネ事業者と連携したフォトコンテストを実施予定。 ・新たな動きについては地元との合意形成が必要。	効果があり、継続して取り組む	再エネ事業に関連する雇用促進に効果があつた	
						総合評価	1	総合評価

	指標	単位	現状値	R3	R4	R5	R6	R7
みらい	町内製造業従業者数	人	269	275	275	280	280	285
	工業統計に基づく4人以上事業所の従業者数							
	実績	人		285	293	251		
産業	創業・設備投資件数	件	2	2	2	2	2	2
	半島振興法や生産性向上特別措置法等の支援制度による創業・設備投資の新規件数							
	実績	件		7	3	1		

事業効果

ア：地方創生に非常に効果的であった(目標値を達成した場合)
 イ：地方創生に相当程度効果があつた(目標値の8~9割達成した場合)
 ウ：地方創生に効果があつた(目標値の5~7割達成した場合)
 エ：地方創生に対して効果がなかつた(進捗がみられない場合)

総合評価

1：効果的に実施できた
 2：ほぼ予定通り実施できた
 3：予定通り実施できなかった

進捗状況

A：予定を超えて実施できた B：予定どおり実施できた(10割実施)
 C：予定近く実施できた(8~9割程度) D：予定には及ばなかつた(5~7割程度)
 E：予定の5割未満

基本方針 3 地域資源を活用し、にぎわいのあるまちをつくる

基本施策 3-2 地域産業の振興

産業	施策内容	①新たな特産品の開発	事業効果	進捗状況	実績、効果	課題、取組方針	行政内部による評価	委員会による外部評価
		主な取り組み	・薬用作物の産地化推進 ・新たな転作奨励作物の開拓	ウ エ	D D	・カノコソウとドクダミの販路を確保して試験出荷を行った。 ・昨年度からドウサンショウの試験栽培を始め生育に努めた。	・産地化を目指すためには作業の効率、設備の整備、品質向上等様々な課題を解決する必要があり、多大な費用と労力を要することから、今年度と一区切りとなった。	薬用作物については取組を終了する その他実施手法を検討する
	総合評価						3	総合評価 3
産業・みらい	施策内容	②地場産業の振興	事業効果	進捗状況	実績、効果	課題、取組方針	行政内部による評価	委員会による外部評価
	主な取り組み	・伊勢茶プロモーションによる茶業の振興	イ	B	・ふるさと納税について新たな返礼品を追加し、町のPRにも寄与している。 ・町長自らが伊勢茶のトップセールスを行い新たな販路を開拓。官公庁向けの販売促進を行ったほか、コロナ後に再開した各種イベントにおいてもブースを設置し、積極的なPRを展開した。 ・給食で町内産の米、ブルーベリー、おでん大根、なばな等を積極的に活用。 ・近隣5町で実施するデジ田事業で事業者の交流会を実施した。	・ふるさと納税について、新たなルールが課されたため、これに対応し返礼品の拡充やPRに取り組む。 ・産業振興について現在の取り組みを継続する。	効果があり、継続して取り組む	地場産業の活用、ふるさと納税等に効果があった
		・お茶文化の醸成による消費拡大	イ	B				
		・ふるさと納税を活用した特産品PR	イ	A				
		・給食による地産地消の推進	ア	B				
		・異業種連携の推進	ウ	C				
総合評価								
産業	施策内容	③林業振興と県産材の活用	事業効果	進捗状況	実績、効果	課題、取組方針	行政内部による評価	委員会による外部評価
	主な取り組み	・林道等整備による施業効率の向上	ウ	C	・林道個別施設計画による橋梁点検の結果が悪かった林道川上線2橋の修繕工事を実施した。県営事業では、鶴ガ坂線開設工事を予定通り行った。 ・デジ田事業にて都市圏で木工製品の販売をおこなった。	・林道整備については、引き続き補助対象を活用し整備を行う。 ・出荷奨励金制度について、広報誌等を活用し、周知を図り、利用促進に努める。	実施手法を検討する	林道整備に一定の効果があった 未実施項目については計画的に進められたい
		・出荷奨励策の利用促進	エ	E				
		・木製品の開発・販路開拓の支援	エ	E				
総合評価								

	指標	単位	現状値	R3	R4	R5	R6	R7
産業	特産品の商品化数	件	3	3	4	5	5	6
	実績	件		5	5	5		
みらい	ふるさと納税額	千円	10,697	12,837	14,976	17,116	19,255	21,394
	実績	千円		54,999	71,813	82,752		
産業	出荷奨励策の利用実績	千円	5	5	6	6	7	7
	実績	千円		4	0	0		

事業効果
 ア：地方創生に非常に効果的であった(目標値を達成した場合)
 イ：地方創生に相当程度効果があった(目標値の8~9割達成した場合)
 ウ：地方創生に効果があった(目標値の5~7割達成した場合)
 エ：地方創生に対して効果がなかった(進捗がみられない場合)

総合評価
 1：効果的に実施できた
 2：ほぼ予定通り実施できた
 3：予定通り実施できなかった

進捗状況
 A：予定を超えて実施できた
 B：予定どおり実施できた(10割実施)
 C：予定近く実施できた(8~9割程度)
 D：予定には及ばなかった(5~7割程度)
 E：予定の5割未満

基本方針 3 地域資源を活用し、にぎわいのあるまちをつくる

基本施策 3-3 農業のさらなる活性化

産業	施策内容	①将来に向けた農業基盤の整備	事業効果	進捗状況	実績、効果	課題、取組方針	行政内部による評価		委員会による外部評価			
		主な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣害被害防止対策 ・農道、農業用施設の整備 ・多面的機能支払制度の推進 ・茶園等再生事業補助 	イ	D	・獣害防止対策について、有害鳥獣駆除では、猪(成獣)144頭、鹿(成獣)474頭、猿(成獣)23匹の駆除を行い、獣害防止柵整備については、鮎川地区で防止柵整備を行い、農業基盤整備を図った。	・獣害防止対策について、有害鳥獣駆除及び防止柵整備を引き続き推進し、基盤強化を図る。また、農道、農業用施設については、各区の要望に対し、町補助金制度等を活用し、対応していく。	一定の効果があり、継続して取り組む		農業基盤の整備に一定の効果があった		
			イ	B	総合評価			2	総合評価	2		
	施策内容	②農業担い手の育成	事業効果	進捗状況	実績、効果			課題、取組方針	行政内部による評価		委員会による外部評価	
	主な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・認定農業者の育成 ・新規就農者支援事業 ・人・農地プランによる集落営農の促進 ・農地中間管理事業による集約化 	イ	B	・認定農業者の農業経営改善計画を1件更新し、再認定を行った。新規就農希望者3名の相談に対して、関係機関と連携し支援を行った結果、1名はR6.4に新規就農予定となった。 ・地域計画の策定に向け、1地区で計画策定に向けて着手、R6に策定予定。 ・農地中間管理事業を活用して、6.9haの農地を担い手に集積。			・認定農業者が高齢化しており、新規就農者の確保が課題。相談のあった新規就農希望者2名を町内での就農へとつなげたい。 ・地域計画の策定とそれに関連した農地の集積集約化に向けて現在の取り組みを継続する。	効果があり、継続して取り組む		担い手の育成、農地の集約化に効果があった	
			イ	B		総合評価	1		総合評価	1		

	指標	単位	現状値	R3	R4	R5	R6	R7
産業	人・農地プラン策定数	件	0	2	2	3	4	5
	上記計画の策定件数(積み上げ)							
	実績	件		1	2	2		
産業	多面的機能支払交付金を活用した組織数	件	10	10	10	10	10	10
	交付金によって支援する組織数							
	実績	件		10	9	10		

事業効果

ア：地方創生に非常に効果的であった(目標値を達成した場合)

イ：地方創生に相当程度効果があった(目標値の8~9割達成した場合)

ウ：地方創生に効果があった(目標値の5~7割達成した場合)

エ：地方創生に対して効果がなかった(進捗がみられない場合)

総合評価

1：効果的に実施できた

2：ほぼ予定通り実施できた

3：予定通り実施できなかった

進捗状況

A：予定を超えて実施できた

B：予定どおり実施できた(10割実施)

C：予定近く実施できた(8~9割程度)

D：予定には及ばなかった(5~7割程度)

E：予定の5割未満

基本方針 4 いつまでも自分らしくいきいきと暮らせるまちをつくる

基本施策 4-1 安心して安全な生活環境の構築

みらい・教委・建水	施策内容	①安全で安心な生活圏づくり	事業効果	進捗状況	実績、効果	課題、取組方針	行政内部による評価	委員会による外部評価		
	みらい・教委・建水	主な取り組み	・自主防災会の組織力向上支援	ウ	C	・民間イベントと連携し、消防ポンプ点検実施。 ・前年に引き続き、通学路交通安全プログラムの登録箇所へ交付金事業を活用し、対策を実施。R5年は8箇所が要対策箇所。内1箇所完成、6箇所施工中。 ・町営住宅建替構想において、ユニバーサルデザイン対応することを方針に盛り込んだ。	・消防団と連携し、支援体制の充実を図る。 ・工事に必要となる予算の確保が課題 ・国の配分内で早期に着手できるように取り組んでいく。 ・町営住宅の建築設計をユニバーサルデザイン対応したものとしていく。	効果があり、継続して取り組む	通学路の安全対策等、安心安全な生活環境づくりに効果があった	
		・通学路の交通安全対策の徹底	ア	B						
		・ユニバーサルデザインによる地域づくり	イ	B						
みらい	施策内容	②交通ネットワークで地域と人をつなぐ	事業効果	進捗状況	実績、効果	課題、取組方針	行政内部による評価	委員会による外部評価		
	主な取り組み	・新公共交通実証事業による交通弱者支援	イ	B	・昨年度、町営バスの利用者は下降傾向であったが、7月に無料キャンペーンを行うなどし、利用者は増えている。 ・経産省の事業を活用し医療MaaSを中心とした地域サービス事業の実証実験をおこなった。	・運行ルートによって、利用者が減っている路線がある。ルートの変更や路線バスなどの乗り継ぎなど、新たな利用方法を見出すために見直しを行う必要あり。 ・R6もMaaS事業の実証実験を実施する。	効果があり、継続して取り組む	バスの利用等、公共交通の利用促進に効果があった 多様な移動需要に対応した取組を検討されたい		
			・既存のバス路線の維持と利用促進	イ					B	
						総合評価	1	総合評価	1	
建水	施策内容	③強靱なまちを支えるインフラ整備等	事業効果	進捗状況	実績、効果	課題、取組方針	行政内部による評価	委員会による外部評価		
	主な取り組み	・災害に強い生活道路の確保	イ	B	・昨年に引き続き、浄水処理施設の更新、老朽管等の更新対策を行った。 ・前年に継続し冠水対策等の町道整備を実施 ・耐震化促進や空家の発生抑制では耐震診断6件、空家除却4戸。	・引き続き配水池の更新、老朽管や維持管理対策を実施する。 ・人件費や資材費等の高騰に伴う工事価格の増大。 ・耐震診断件数が前年と比較し減となっていることから更なる周知や啓発が必要。	効果があり、継続して取り組む	道路整備、水道設備の整備等、インフラ整備に効果があった		
			・安全で安定した水の供給のための計画的な施設更新	イ					B	
		・住宅の耐震化促進と空き家の発生抑制	イ	B						
							総合評価	1	総合評価	1

	指標	単位	現状値	R3	R4	R5	R6	R7
みらい	地区が自主的に実施した訓練回数	回	16	20	24	28	32	37
	実績	回		7	7	7		
みらい	町営バス利用人数	人	902	950	1,000	1,050	1,100	1,200
	実績	人		899	748	869		

事業効果

ア：地方創生に非常に効果的であった(目標値を達成した場合)
 イ：地方創生に相当程度効果があった(目標値の8~9割達成した場合)
 ウ：地方創生に効果があった(目標値の5~7割達成した場合)
 エ：地方創生に対して効果がなかった(進捗がみられない場合)

総合評価

1：効果的に実施できた
 2：ほぼ予定通り実施できた
 3：予定通り実施できなかった

進捗状況

A：予定を超えて実施できた
 B：予定どおり実施できた（10割実施）
 C：予定近く実施できた（8~9割程度）
 D：予定には及ばなかった（5~7割程度）
 E：予定の5割未満

基本方針 4 いつまでも自分らしくいきいきと暮らせるまちをつくる

基本施策 4-2 いつまでも元気に自分らしく暮らせる地域環境づくり

	施策内容	①健康づくり・介護予防の推進	事業効果	進捗状況	実績、効果	課題、取組方針	行政内部による評価	委員会による外部評価
長寿	主な取り組み	・まちウォーキングで暮らしにプラス	イ	C	・介護予防サポーターとウォーキングコースを選定し、介護予防及び世代間交流にてウォーキング事業を実施。 ・集いの場は20地区中18地区再開し、健康づくりに取り組むことができ、再開にあたり、ポイントの交換率も向上した。	・ウォーキングできるコースを介護予防サポーターと選定し、まちなかでウォーキングできるコースを増やす。 ・自粛中の2地区が再開できるよう地区スタッフと連携し支援を継続する。	一定の効果があり、継続して取り組む	健康づくり、介護予防に一定の効果があった
		・茶き茶きポイント事業	イ	C				
		・カフェや集いの場など地域での健康づくり	イ	C			総合評価	2
教委・長寿	主な取り組み	②生涯活躍できるまちづくり	ア	A	・高齢者向けの体操を継続して実施。加えてデジタルディバイド対策として高齢者向けのスマホ講座を実施。R5はみらい安心課の出張サービスと連携して出先でも実施した。 ・シルバー人材センターは、お助け隊機能拡充することとし、今年度は準備を進めることができた。	・DXの成果を高齢者も受けられるよう取り組みを続けた。また、高齢者の地域課題解決につながる学習機会も提供していきたい。 ・お助け隊機能拡充し、来年度から運用を開始する。	効果があり、継続して取り組む	生涯学習講座やお助け隊の制度拡充等、生涯活躍できるまちづくりに効果があった
		・ニーズに応じた生涯学習講座の開設	イ	B				
		・お助け隊からシルバー人材センターへの移行					総合評価	1
総務・教委	主な取り組み	③地域コミュニティの活動促進	イ	B	・各地域の環境整備に対し補助金による支援を実施。 ・地域の伝統行事に対し町補助金を交付した。コロナ禍により中止していたものもおおむね再開。	・地域の実情に応じた環境整備の支援を引き続き実施する。 ・伝統や文化財の支援について広報周知のほか、出前授業なども活用し郷土への愛着の醸成に努めたい。	効果があり、継続して取り組む	補助金や活動支援等、地域コミュニティの活動促進に効果があった
		・地域の環境整備支援	イ	B				
		・地域伝統・文化財の保護活動支援					総合評価	1

	指標	単位	現状値	R3	R4	R5	R6	R7
長寿	重度要介護認定率	%	6.4	6.4	6.3	6.3	6.2	6.2
	実績	%		7.1	7.3	7.3		
長寿	お助け隊(シルバー人材センター)延べ利用件数	件	58	60	65	70	75	80
	実績	件		55	30	64		
総務	各地区への補助金交付件数	件	51	52	53	54	55	56
	実績	件		58	54	56		

事業効果

ア：地方創生に非常に効果的であった(目標値を達成した場合)
 イ：地方創生に相当程度効果があった(目標値の8~9割達成した場合)
 ウ：地方創生に効果があった(目標値の5~7割達成した場合)
 エ：地方創生に対して効果がなかった(進捗がみられない場合)

進捗状況

A：予定を超えて実施できた
 B：予定どおり実施できた(10割実施)
 C：予定近く実施できた(8~9割程度)
 D：予定には及ばなかった(5~7割程度)
 E：予定の5割未満

総合評価

1：効果的に実施できた
 2：ほぼ予定通り実施できた
 3：予定通り実施できなかった

基本方針 4 いつまでも自分らしくいきいきと暮らせるまちをつくる

基本施策 4-3 持続可能な行政運営の推進

総務・出納	施策内容	①行政サービス・行政運営へのICTの活用推進	事業効果	進捗状況	実績、効果	課題、取組方針	行政内部による評価		委員会による外部評価	
	主な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 行政手続きのデジタル化推進 キャッシュレス決済の普及 共同クラウドの活用推進 オープンデータの導入 	イ	B	<ul style="list-style-type: none"> R4年度にPayPayとLINEPayでの納付を可能とし、R5年度からは「地方税統一QRコード」の利用も始まった。一定数の住民等に継続して利用していただいている。 電子決済システムの実施に向けての準備を行った。 県の統一的な取組の一環で、新たに3つのオープンデータを公開した。 	<ul style="list-style-type: none"> 税等のコンビニやスマホ収納は手数料が高いため、できれば口座振替を推進したいという思いがある。 窓口でのキャッシュレスは費用対効果を考えると難しい。 びったりサービスや、LoGoフォームを活用した電子申請の充実を図るための、町民への周知や職員の意識改革が必要。 オープンデータの定期的な更新や充実について、全庁的な取組が望まれる。 	効果があり、継続して取り組む	総合評価	1	総合評価
みらい	施策内容	②広域連携の推進	事業効果	進捗状況	実績、効果	課題、取組方針	行政内部による評価		委員会による外部評価	
	主な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 定住自立圏構想の推進 近隣市町との協働プロジェクト 	イ	B	<ul style="list-style-type: none"> 伊勢志摩定住自立圏の次期ビジョンを策定した。移住促進について伊勢志摩地域で連携し都市部での活動を展開。 近隣5町でデジタル田園都市国家構想の採択を受け美村プロジェクトを進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少が進む中で広域連携をさらに深めることは効果的であり各分野で進めたい。 デジタル田園都市国家構想の実現するためには継続的な取組が必要。 	効果があり、継続して取り組む	総合評価	1	総合評価
みらい	施策内容	③脱炭素社会実現に向けた持続可能な社会づくり	事業効果	進捗状況	実績、効果	課題、取組方針	行政内部による評価		委員会による外部評価	
	主な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> SDGsやCO₂排出量の実質ゼロ等に関する町からの情報発信 持続可能な社会へのアプローチ 	ア	A	<ul style="list-style-type: none"> R5.7に度会町ごみの減量化・再資源化推進を宣言、ローカルブルーオーシャン推進事業の採択をうけ、ゴミの分別や再資源化に取り組んでいる。 脱炭素と防災力強化を実現するレジリエンス事業に着手した。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界で持続可能な社会に向けた動きが加速する中、これをチャンスと捉えて積極的に進める。 今までにない大規模な事業であるためマンパワーが課題。地域活性化起業者等の外部人材を活用する。 	効果があり、継続して取り組む	総合評価	1	総合評価

	指標	単位	現状値	R3	R4	R5	R6	R7
総務	ICT等を活用した新規取り組みの件数	件	4	4	3	3	3	3
	ICT等を活用した事業の実施件数	件		4	3	3		
みらい	定住自立圏構想の進捗状況	%	70	80	90	100	100	100
	「伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン」に基づく進捗状況	%		77	90	100		
建水・みらい	脱炭素社会実現に向けた町の姿勢の表示	%	100	100	100	100	100	100
	新たに策定する町の計画にSDGsやCO ₂ 排出量実質ゼロに関する姿勢を表した件数	(5/5)						
	実績	%		100	100	100		

事業効果

ア：地方創生に非常に効果的であった(目標値を達成した場合)

イ：地方創生に相当程度効果があった(目標値の8~9割達成した場合)

ウ：地方創生に効果があった(目標値の5~7割達成した場合)

エ：地方創生に対して効果がなかった(進捗がみられない場合)

総合評価

1：効果的に実施できた

2：ほぼ予定通り実施できた

3：予定通り実施できなかった

進捗状況

A：予定を超えて実施できた

B：予定どおり実施できた (10割実施)

C：予定近く実施できた (8~9割程度)

D：予定には及ばなかった (5~7割程度)

E：予定の5割未満